



文武両輪

～学習も行事も部活動も～

令和5年1月13日

【文責】校長 蔦川 誠

次への準備をする3学期に！

今日から3学期が始まりました。3学期に登校する日にちは1・2年生が48日、3年生が41日となります。2学期の登校日が83日もあったのに比べて、半分くらいしかありません。3学期はとても短いのです。しかも3学期は、私立高校入試や県立高校入試、立志式さらには卒業式などの行事が続くことで忙しく感じる事が多く、1学期や2学期に比べ、あっという間に過ぎてしまうように感じられます。

短いえに忙しくなる3学期ですが、3学期が終わると、次の段階へ進むこととなります。3年生は卒業して高校へと進学し、1年生は2年生に、2年生は3年生に進級します。また、3学期は今年度のまとめという役割もあります。まとめにふさわしい言葉に、次の言葉があります。

「有終の美」(ゆうしゅうのび)という言葉です。

よく「有終の美」を飾るといふ言い方をします。「物事をやり通し、最後を立派に仕上げる、最後を立派な状態にする」という意味です。皆さんにとって有終の美を飾るとは、1・2年生であれば今年度のまとめとして、3年生は今年度だけでなく中学校生活三年間のまとめとして、学校生活を立派に終えることです。3学期、皆さんには是非「有終の美」を飾ってほしいと思います。3学期は短いけれども、次の段階へ進むための大事な期間です。

それでは3学期、どんなことを心がけて過ごせばよいのか、ヒントとなるお話をします。

春になると、青森県内では、だいたい4月20日頃から桜の花が咲き始めます。本校の桜も、きれいな花を咲かせてくれます。

花のもとになる芽を花芽といいます。桜の木は、この花芽を花が散ったすぐ後の夏にはつくっているそうです。それでも、花芽ができた直後の夏の終わりや秋に花が咲かないのは、しばらくの間、眠った状態に入るからです。すでに、花を咲かせるための必要な要素は揃っているのですが、実際には春になるまでは、花は咲かないのです。花を咲かせるためには、花芽が眠っている状態を覚ます必要があります。そのためには、花芽が一定期間、寒さにあうことが必要です。冬の寒さがないと、花芽は目覚めて、花を咲かせることはできないのです。ですから、冬のない熱帯の国々では、桜は美しく咲くことはできないのだそうです。

今、外は桜の木をはじめ多くの植物が、冬の厳しい寒さの中で眠っているかのようです。

しかし、目には見えませんが、厳しい寒さの中でも、植物の内部では、春に花を咲かせるために少しずつ準備を始めているのです。桜であれば、寒さにあうことで花芽が少しずつ目覚めてきたり、その他の植物も根をしっかりと土の中に伸ばしたりしているのです。

私たち人間も、何をやってもうまくいかないときがあります。いわゆるスランプ状態のときです。よく、冬の時代といわれることもあります。季節でいうとちょうど、寒さが厳しくなる今の時期にあたります。そういうときこそ、次の言葉を胸に刻み込んでください。

「何も咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。」

長い人生においても、その中の3年間に過ぎない中学校生活においても、苦しい時期・我慢が必要な時期、自分の頑張りを誰も認めてくれない時期があります。時間をかけて学習に取り組んでいるのに、なかなか成績が上がらないとき、部活動でたくさん練習しているのに試合や競技で結果が出ないとき、などです。そんなときでも、あきらめずに投げ出さずに、目の前にある、やるべきことに毎日コツコツと取り組みましょう。寒い時期の植物のように、しっかりと根を伸ばすことによって、間もなく大きな花が咲くはずですよ。

3学期は、次の段階に向けて、少しずつ実力をつけていく時期です。

忙しさに流されずに、1日1日を大切に過ごし、学習でも部活でも地道な努力を続けていきましょう。冬の厳しい寒さが続く時期だからこそ、植物がしっかりと根を伸ばし花芽を育てるように、皆さんもしっかりと力を蓄えていきましょう。そして、春になったら、次の段階で大きな花を咲かせましょう。

皆さんが仲間とともに高め合いながら成長し、次の段階で大きく活躍するための実力を蓄える3学期にしていくことを、大いに期待しています。(3学期始業式式辞から)